

- 2014/11/27 ガディマイ祭:動物供犠と人間の業(10)
- 2014/11/26 ガディマイ祭:動物供犠と人間の業(9)
- 2014/11/24 ガディマイ祭:動物供犠と人間の業(8)
- 2014/11/22 ガディマイ祭:動物供犠と人間の業(7)
- 2014/11/19 ガディマイ祭:動物供犠と人間の業(6)
- 2014/11/18 ガディマイ祭:動物供犠と人間の業(5)
- 2014/11/17 ガディマイ祭:動物供犠と人間の業(4)
- 2014/11/06 ガディマイ祭:動物供犠と人間の業(3)
- 2014/11/03 ガディマイ祭:動物供犠と人間の業(2)
- 2014/11/01 ガディマイ祭:動物供犠と人間の業(1)

ガディマイ祭 : 動物供犠と人間の業(10)

8. ブリジット・バルドーの大統領宛公開書簡

仏女優ブリジット・バルドーが、ガディマイ祭禁止を求める公開書簡をネパール大統領に送った。祭り利用の金儲け批判はもっともだが、だからといって神々への敬虔な動物供犠までも十把一絡げに否定するのは、行き過ぎだ。

一国の元首に向かって、その国の伝統文化を「血に飢えた」「残虐な暴力行為」と罵倒し、止めさせよ、と高飛車に要求するのは、あまりにも非礼。ネパール大統領は、完全無視でよい。

肉食主義者の肉食反対や非暴力主義者の動物供犠反対は、むろん自由である。大いに議論し、新しい文化を創っていったらよい。が、だからといって、宗教や文化の根幹に関わる価値(価値観)の問題を、安易に政治の世界に持ち出すことは許されない。神々の争いを政治化すれば、世界は動物以前に人間が殺し合うことになる。

しかし、残念なことに、近代以降、欧米の政治技術が発達し、いまや世界世論は彼らにより操縦されている。欧米の常套手段は分割統治。ネパールの動物供犠についても、欧米が介入し、世論を分断し、問題を政治化し、結局はそれを政治的に廃止させてしまうだろう。

予定では、明日、明後日が動物供犠。SAARC 会議よりもはるかに重要。注視していきたい。

[書簡要旨]

2009 年の書簡は無視されたが、私は諦めてはいない。

今年は、総数 25 万のヤギ、水牛、ブタ、ニワトリ、ハト、アヒル、ネズミが生贄にされる。しかし、ガディマイ女神が、そのような無実の生き物の生贄を喜び、その残虐な暴力と引き替えに繁栄をもたらしてくれるとは、到底信じられない。

古くさい血まみれの残虐な伝統は、ネパールの評判を大きく損なう。廃止すれば、評価は上がる。

ガディマイ祭は金儲けが目的となっており、ネパール政府はそのような祭りを認めるべきではない。この祭りが認められるのなら、「麻薬祭」や「酒祭」でさえ認められることになる。

インド内務省は、ネパールへの不法な動物輸送を禁止した。ヒマーチャルプラデーシュ州でも、動物供犠禁止の判決が出た。インドは、動物保護に向け大きく前進している。

大統領の国ネパールも、残虐な伝統を一掃すべきだ。そうすれば、平和と共生のために立ち上がった大統領として、あなたの名前は後々まで語り継がれるだろう。そして、あなたの国も長く繁栄するだろう



Paris, 10/11/2014

Dr. Ram Baran Yadav
President of the Republic of Nepal
Office of the president
Sheelal Niwas
Kathmandu, Nepal

Open letter to Dr Ram Baran Yadav, President of the Republic of Nepal

Dear Honorable President,

My letter in 2009 stayed unanswered but I am not giving up hope that we will finally be able to communicate and bring about positive outcomes. Animal rights activists in Nepal and elsewhere are once more campaigning to end the biggest mass sacrifice of animals in the world at Gadhimai Mela, to be held in two weeks in the southern plains of the country.

The world will watch again with horror and despair as the estimated 250,000 goats, male buffalo, pigs, chickens, pigeons, ducks and white mice are cruelly sacrificed within two days.

I find it hard to believe that the Goddess Gadhimai would rejoice in the sacrifice of innocent creatures and reward such cruel violence with prosperity.

Such practices, which recall ancient and cruel traditions that we thought would have forever disappeared, live on to present an extremely negative image of your country and its evolution. It is a dramatic and bloodthirsty example in an already cruel global context. Nepal will receive more credit by preaching its spiritual message of non-harming and compassion instead.

The fact that business oriented organizers exploit this massive hysteria does not mean that the government has to legitimize it. Why not legitimize then a national festival for drugs or alcohol, as it would also surely attract a substantial mass of "devotees" who would gather from all over the world if the government would allow it.

A letter issued by the Indian home ministry to all the four states bordering Nepal is ensuring that no animals are taken illegally from India to Nepal for the sacrificial ritual. A judgment in the state of Himachal Pradesh is prohibiting ritual slaughter. India is really moving fast in the direction of compassionate action and I beg you, Honorable President, to wipeout such cruel tradition in your country. Your name would be remembered through generations for standing up for peace and harmony. I assure you that it will contribute greatly towards a truly long lasting prosperity in your nation.

Yours Sincerely and desperate,

Brigitte Bardot
President

FONDATION BRIGITTE BARDOT

RECONVOCATION DU PAYSANNE PAR OUVRIERS DU 21 FEVRIER 1992

28, rue Vineuse - 75114 Paris - France • Tél. 01 45 05 14 60 • Fax 01 45 05 14 50 • CCP Paris 002 057

fb@fondationbrigittebardot.fr www.fondationbrigittebardot.fr

谷川昌幸(C)

2014/11/27 at 17:24 カテゴリー: [宗教](#), [文化](#)

Tagged with [ガディマイ](#), [Brigitte Bardot](#), [Gadhimai](#), [動物の権利](#), [動物愛護](#), [動物供犠](#), [政教分離](#)

ガディマイ祭：動物供犠と人間の業(9)

6. インド政府の対応

インドでは、様々動物愛護主義者や動物保護団体が、政府への要請やデモ、あるいは裁判所への訴えなどにより、ガディマイ祭への動物輸送を阻止しようとしている。

たとえば、モディ内閣の女性子供開発大臣マネカ・ガンディー。ネルー＝ガンディー家の一員であり、動物の権利擁護運動の世界的指導者の一人。インドにおいて People for Animals を創設し、また International Animal Rescue の後援者でもある。ガディマイ祭に対しても、新聞、ネットなどで手厳しく批判・攻撃している。ブリジット・バルドー、ジョアンナ・ラムリーと並ぶガディマイ祭反対運動の国際的代弁者。

このようにインドでガディマイ祭反対運動が盛り上がる中、高裁と最高裁が相次いでガディマイ祭への動物の輸送を禁止する注目すべき命令を下した。（報道錯綜のため、多少、不正確な部分があるかもしれない。判れば、後日訂正）



■マネカ・ガンディー
(Hindustan Times,
2010-7-31)

(1)高裁判決

[1]ウッターカンド高裁判決，2011年12月19日

インドでは、すでに多くのヒन्दゥ寺院が動物供犠を止めている。ウッターカンド州のブーカル・カリカ祭でもスクラ・パクサ (शुक्र पक्ष) でも、動物供犠はなくなった。

「わが州の人々のこのような行動を見れば、神々を喜ばせるための動物供犠は、もはや行わないという意識ができあがっていることは明白である。…… この法律 [動物虐待禁止法 2001 「動物を認可屠殺場以外で屠殺してはならない」] に定めるとおり、神々を喜ばせるための動物供犠の古い伝統があるとはいえ、屠殺場以外での動物屠殺は認められない。」

「供犠は無実の動物に耐えがたい苦痛を与える。……この社会悪は規制されるべきである。」

(r)

[2]ヒマーチャル・プラデーシュ高裁判決，2014年9月26日

あらゆる寺院での動物供犠を禁止。

「憲法の掲げる価値は、宗教の掲げる価値に優位する。人間の権利と同様、動物の権利についても、それを侵害するような命令や勧告を発する権利はない。

宗教の名で動物を虐待することは許されないし、もし憲法や妥当する法律に反するような指示を信者に出すなら、それは違法な行為である。憲法設置でもない団体が、法律を無視させるような指示を出すことは許されない。」(d)



■動物園授業参加のガウリ・マウレキ：
2013年9月5日（PFA-Uttarakhand HP）

(2)最高裁判決

[1]違法な動物輸送防止の仮処分命令，2014年10月14日

原告：ガウリ・マウレキ(Gauri Maulekhi)，動物の権利擁護活動家(People for Animals Uttarakhand)

「ガディマイ祭の供犠動物の70%以上は、ビハール、ウッタルプラデーシュ、西ベンガルの人々が不法に国境を越え持ち込む。このような家畜の無規制越境は、インドの輸出入規則に違反している。水牛の多くは、ビハールから祭りのため連れてこられる。・・・

動物は、運搬中の疲労、脱水、寒さ、ストレスに苦しめられる。多数の動物が集中するので、動物伝染病の発生の危険があり、もしそうなれば、家畜や経済に甚大な影響を及ぼす。疫病の流行は、公衆衛生にとっても危険だ。儀式のための屠殺は、動物に対する残酷な残虐行為である。」

仮処分命令：裁判長J.S.Khehar

「外国貿易法1992」は、無資格者の家畜輸出を禁止している。連邦政府と関係諸州（ビハール、ウッタルプラデーシュ、ウッタルカンド、西ベンガル）は、違法な家畜輸送を防止せよ。ネパールのガディマイ祭での供犠動物の70%は、インドから持ち込まれる。インドの動物に、そのような「恥ずべき残虐」を加えることは、認められない。(c,s,t)

[2]違法な動物輸送の防止命令，2014年11月21日

連邦と関係諸州は、国境管理を厳格化し、ネパールへの違法な動物輸送を防止せよ。[u]

(3)インド政府の対応

連邦内務省は、9月25日付通達において、ビハール州とウッタルプラデーシュ州に対し、祭り期間中、動物をネパールへ輸送することを禁止した。

2014年の祭りでは、約9万頭の水牛のネパールへの違法輸送が予想される。これを防止する対策をとること。特に11月24～29日は、警戒を強化せよ。武装国境警備隊には、すでに出動命令が出ている。以上が、通達の要旨。

この通達や他の同様の指示に基づき、ビハール州当局は、印ネ国境付近において、違法家畜輸送容疑で47人を逮捕し、271頭を没収した。没収家畜総数は、4州で2422頭。

こうしたインド政府の規制強化に対し、ガディマイ祭実行委員会のラム・チャンドラ・シャハ委員長は、こう反論している。

「これまでのそうした通達には、たいした効果はなかった。……われわれが、人々に動物を連れてこいと要求しているのではない。人々が自分自身の信仰に従い、動物を連れてきて、ガディ女神に生贄として捧げているのだ。」(c,v,x,y,z)

7. ネパール政府の対応

ネパール政府は、「動物の福祉と疫病防止のための対策」はとるが、供犠の全面禁止は考えていない。これに対し、ネパール最高裁へ二つの訴えが提出された。

原告：[1]アルジュン・クマール・アリアル弁護士，サロジ・クマール・ニューパネ。[2]ラム・クリシュナ・バンジャラ弁護士，ギータ・プラサド・ダハール（ネパール動物福祉調査センター事務局長）

訴えの要旨：訴えの内容はいずれもほぼ同じ。ガディマイ祭の動物供犠は、「動物の健康と家畜の取り扱いに関する法律1979」の規定に反する。また、それは環境、公衆衛生、人々の心理に対し、悪影響を及ぼす。それゆえ、政府は、動物供犠を中止させる措置を執るべきである。

仮処分命令，2014年11月24日：裁判長ゴビンダ・プラサド・ウパダヤ

動物の取り扱いに関する法令は、いくつかある。「動物の健康と家畜の取り扱いに関する法律1979」，「動物屠殺・食肉検査法」，「環境保護法」など。これらの関係法令を遵守して、ガディマイ祭は実施されるべきである。(g,w,x)



■政府への反対請願：H.K.シュレスタ(Nepal Mountain News, 2014-11-17) / ガディマイ祭反対デモ：カトマンズ 2014年10月11日(Animal Welfare Network Nepal FB)

[参考資料]

[c]Chahana Sigdel, "Gadimai slaughter: Bihar, UP asked to check animal flow into Bara," Ekantipur, Oct.13, 2014

[d]Rukmini Sekhar, "Gadhimai Festival: Harvest of Blood," 05 October 2014. <http://www.dailypioneer.com/sunday-edition/agenda/for-a-cause/gadhimai-festival-harvest-of-blood.html>

[r]Poorva Jshipura, "Animal Sacrifice has No Place in Space-Age India," 2014-10-17. <http://www.ibtimes.co.uk/animal-sacrifice-has-no-place-space-age-india-1470505>

[s]"Supreme Court issues notice to Centre, states on cattle export to Nepal," 2014-10-14. <http://www.dnaindia.com/india/report-supreme-court-issues-notice-to-centre-states-on-cattle-export-to-nepal-2026108>

[t]"India apex court restricts export of animals," ekantipur, 2014-10-16

[u]"Cattle trafficking; SC asks Centre, states to keep up vigil on Indo-Nepal border," 2014-11-21. <http://zeenews.india.com/>

[v]"Supreme Court of India Intervenes to Save Thousands of Animals from Nepal's Brutal Gadhimai Festival Sacrifice," Humane Society International-India, 2014-10-20. <http://www.hsi.org/world/india/news/releases/2014/10/india-supreme-court-gadhimai-ruling-102014.html>

[w]"SC Orders Gadhimai Festival To Respect Existing Law," Republica, 2014-11-25

[x]"Gadhimai fair: 271 cattle seized," Ekantipur, 2014-11-21

[y]"India police seize animals bound for Nepal sacrifice," AFP, 2014-11-24. <http://www.dailymail.co.uk/>

[z]Manash Pratim Gohain, "India confiscates hundreds of animals at Nepal border ahead of Gadhimai festival," The Times of India, 2014-11-20.

谷川昌幸(C)

2014/11/26 at 15:45 カテゴリー: [インド](#), [宗教](#)

Tagged with [ガディマイ](#), [ヒンドゥー教](#), [Gadhimai](#), [Maneka Gandhi](#), [動物の権利](#), [動物福祉](#), [動物愛護](#), [動物供犠](#)

ガディマイ祭：動物供犠と人間の業(8)

5. ガディマイ祭批判の皮相性

ガディマイ祭は非人道的だという批判は、祭の近現代的部分、つまり興行化・商業化した部分については妥当するが、祭の本質たる伝統的宗教的供犠部分については的外れである。神々へ

の敬虔な動物供犠は、非人道的であるどころか、むしろそれこそが信仰をもつ人々にとっては動物の生命の尊厳を真に尊重する最も誠実な生き方である。

(1)人間の「手段」としての動物

そもそも西洋では、古代ギリシャにおいてもキリスト教においても、さらには近代西洋哲学においても、人間と動物は明確に区別されていた。アリストテレスによれば、動物は、その自然において、すなわち生まれながらにして本質的に (by nature) 、人間とは別のものであり、理性的な人間のためにつくられた非理性的存在であるにすぎない。

キリスト教では、神が万物を創造し、「神の似姿」たる人間に、地上の他の生物すべてを支配する権限を与えた（「創世記」、トマス・アクィナスなど）。

近代になっても、動物は、デカルトにとっては「複雑な機械」にすぎなかったし、カントにとっては人間のための単なる「手段」に他ならなかった。

このように、西洋では動物は人間とは全く別のカテゴリーのものであり、魂や自意識などあるはずもなく、人間によって自由に支配され利用されてよいものであったのである。

(2)動物愛護運動の拡大

ところが、18世紀末から19世紀にかけて、欧米で快苦を動物一般に共通のものとし善悪の判断基準とする功利主義が勃興し、新興ブルジョア階級に支持を広め始めると、ブルジョア社会において動物愛護が唱えられるようになった。ちなみに貴族のたしなみは狩猟、労働者階級の娯楽は「クマいじめ」、「牛いじめ」など。

そして、この動物愛護に、資本主義による自然破壊が拡大するとエコロジーの観点からの動物保護の訴えも加わり、動物愛護運動はさらに勢いを強め、欧米から世界へと広がり、いまや動物保護がドイツなどで国家の憲法にまで書き込まれるようになった。この動物愛護運動の発展の概要は以下の通り。

1822(英)：「家畜虐待禁止法（マーチン法）」。動物福祉のための世界初の議会制定法。違反は罰金または3か月以下の拘禁刑。

1824(英)：「動物虐待防止協会（SPCA）」設立。のちにビクトリア女王援助の「王立動物虐待防止協会（RSPCA）」に発展。

1871(独)：刑法で動物虐待禁止。

1911(英)：「動物保護法」制定。動物に「不必要な苦痛」を与えると、罰金または6か月以下の拘禁刑。

1925(英)：「動物使用規制法」制定。以後、英国で「愛玩動物法」（1951）など関係法令多数制定。

1933(独)：ナチスの動物保護政策。「温血動物屠殺法」＝屠殺前の麻酔の義務づけ（ユダヤ教の麻酔なしコーシャ屠殺の禁止が目的とされる）。「動物保護法」＝広範かつ詳細な動物保護法で、違反は罰金または2年以下の拘禁刑。

1972(独)：「改正動物保護法」（改正 1972,1982,1986,1998）。以後、多数の動物保護法令制定。

1979(欧)：「屠殺動物保護協定」

1979(欧)：「アムステルダム協定」で動物を「意識をもつ存在(sentient beings)」と規定。これを「リスボン条約」(2009)で条文化。

2002(独)：基本法（憲法）改正。「第 20a 条（自然的生活基盤の保護義務）国は、……自然的生存基盤および動物を保護する。」

2012(EU)：「動物福祉計画（Animal Welfare Strategy）2012–2015」制定。

現在：「世界動物保護協会(WSPA)」などが、上記「動物福祉計画」のような広範な動物保護を、国連において「動物福祉宣言(Universal Declaration on Animal Welfare=UDAW)」として採択し世界に動物福祉を拡大するよう、国連や世界社会に強力に働きかけている。「宣言」の要旨は以下の通り。

- ・動物は「意識をもつ(sentient)」生物。
- ・動物の人道的(humane)取り扱い。
- ・動物への5つの自由の保障：飢餓からの自由，恐怖からの自由，不快からの自由，苦痛・疾病からの自由，自然な生存の自由。
- ・人間と動物の共生。
- ・すべての国の「宣言」遵守義務。



■クマいじめ(Public Garden & Grounds)/ 奴隷船内(New Heaven Colony Historical Society)

(3)動物愛護運動の皮相性

西洋の動物愛護運動は、この略史を見ても分かるように、自然と人間を対置し、自然を単なる手段として利用しようとしてきた人間中心主義の皮相な裏返しにすぎない。

[1]西洋の人間中心主義

西洋の人間中心主義は、人間以外の動物を単なる手段と見るにとどまらなかった。外見は人間であっても理性なき者は動物と同等（有声の道具）とみなすという古代ギリシャ以来の人間観を根拠に、西洋は人間をすらもおおびらに狩り立て、貨物船に詰め込み、満身に食事すらさせず「新大陸」に運び、競売にかけ、奴隷として酷使・虐待した。黒人差別が制度的に廃止されたのは、ほんの数十年前のこと。あるいはまた、非文明的・非理性的を理由として、非西洋世界を植民地化し、「未開原住民」を酷使・虐待した。植民地がほぼ解放されたのも、つい数十年前のことにすぎない。

[2]動物愛護運動による動物虐待

このような誤った理性中心主義や自然の過度の搾取は、改められるべきだが、だからといって動物愛護運動のような動物愛護の仕方は皮相かつ行き過ぎであり、より冷酷な別の形の動物虐待を際限なく拡大する恐れがある。

ペット動物は、愛玩すればするほど動物の本性＝自然を奪うことになり、語の正確な意味において、動物虐待である。

また肉食については、菜食主義者が肉食を断つのは自由だが、だからといって肉や魚を食べる人々を「非人道的」といって非難するのは、行き過ぎである。人間が動物の肉や魚を食べるのは、ごく自然なことであり、倫理的に非難されるべきことではない。

屠畜についても、苦痛なき運搬や屠殺は、現実にはもっぱら経済効率の観点から推進されているにすぎない。動物でも魚でも、健康なものを苦痛なく手早く処理しなければ、経費がかかる上に、食品としての商品価値も下がるからだ。

誤解を恐れずあえていうならば、人間は自分の食べる動物や魚が殺され苦しむ姿を出来るだけ直視すべきだ。

近代的・衛生的工場での流れ作業による効率的な苦痛なき屠殺と食肉処理——これは、動物自身ではなく、経済効率を最優先させ、死の苦痛を見たくも見せたくもないエゴイスティックな人間のための工夫だ。

動物や魚にとって、殺され苦しむ姿をブラックボックス内に隠され、美しい「パック肉」や「パック切身」となった姿だけを見られ、”おいしそう！”と買って買われ食われるのは、本望ではあるまい。いやそれどころか、それは人間エゴによる最悪の動物虐待とさえいわざるをえないだろう。

[3]人間の業の直視

人間が生きる上で不可避の業については、多くの人々が語っているが、ここでは二つだけ紹介しておこう。

●血への渴望 Himal Southasian, Dec.2009

動物の権利擁護運動家が直視しようとしぬ問題が、一つある。ガディマイ信者は、少なくとも正直に、包み隠すことなく、自分たちの動物供犠を行ってきた。では、処理場の壁の内側で日々何百万もの動物が殺されていることは、どうなのか？ 屠殺の衛生化が、世界中の非ベジタリアンたちに、人道主義者の仮面を付けさせてきたのではないか？ アメリカの感謝祭で4千万羽もの七面鳥が殺されることは、どうなのか？ ガディマイ信者は、その動物供犠の公開性のゆえに処罰されなければならないのか？

●大漁 金子みすず

朝焼小焼だ

大漁だ
大羽鱈 [おおばいわし] の
大漁だ。
浜は祭りの
ようだけれど
海のなかでは
何万の
鱈のとむらい
するだろう。

[参照資料]

* “Animal Welfare.” <http://www.politics.co.uk/reference/animal-welfare>

* Ben Isacat, “How to Do Animal

Rights,” Aug. 2013. <http://www.animalethics.org.uk/about.html>

* 中川亜紀子「ドイツにおける動物保護の変遷と現状」四天王寺大学紀要 54 (2012)

* 藤井康博「動物保護の憲法改正(基本法 20a 条) 前後の裁判例」早稲田法学会雑誌 60-1(2009)

* 内澤句子『世界屠畜紀行』2007



谷川昌幸(C)

2014/11/24 at 15:14

カテゴリー: [宗教](#), [文化](#), [歴史](#), [人権](#)

Tagged with [ガディマイ](#), [理性](#), [Gadhimai](#), [動物の権利](#), [動物福祉](#), [動物愛護](#), [奴隷](#), [屠畜](#), [業](#), [供犠](#)

ガディマイ祭：動物供犠と人間の業(7)

(3)非人道的で原始的な迷信

ガディマイ祭の動物供犠は「残酷」で「非人道的」であり、「動物の権利」「動物の福祉」の侵害だという動物愛護主義者からの非難。欧米の動物愛護運動とヒンドゥー教の非殺生運動とが連携しており、組織的・戦略的であって声も大きく、近年、急速に力を増している。

たとえば、彼らは仏女優ブリジット・バルドーや英女優ジョアンナ・ラムリーら著名人を押し立て、インターネットもフルに利用して反対運動をグローバルに繰り広げる一方、ネパール政府や各国在ネパール大使館に、直接、中止要求書を送りつけたりもしている。彼らの主張は、以下の通り。



■ブリジット・バルドー基金の反ガディマイ祭運動(同 HP)



■J・ラムリーの反ガディマイ祭運動 (Demotix,2014-10-11)

[1]動物は意識と感情を持つ

「動物は、単に利用・虐待されてよいものではなく、痛みや苦しみを感ずることの出来る感情をもつ生き物である。」(k)

「科学的に証明されているように、人間と同様、動物もまた意識をもち、感情をもっている。したがって、動物は、これまでとは別の方法で扱われるべきだ。このことは、様々な古いヒンドゥー教典にも述べられている。……無実な動物を、われわれは苦しめているのだ。」(p)

「動物はたいへん知的で意識をもつ生き物であることを忘れてはならない。」(b)

[2]残虐で非人道的

「2009年祭の目撃者によれば、動物たちには、供犠まで何日間も水もエサも与えられない。多くの若い動物たちが、ストレス、極度の疲労、脱水のため、供犠開始前にすでに死んでしまっていた。その死体は生きていた動物たちの間に放置されていた。誰もが、ナイフや〔ククリ〕刀、あるいは他のどのようなものを使用しても、どの動物を殺してもよかった。屠殺は経験不足でありナイフの切れ味も鈍かったので、多くの動物が耐えられないほどの長時間の暴力的な死の苦しみを受けざるをえなかった。……多くの水牛が逃げ回った。子水牛は悲しそうに鳴き、母水牛を探して血の海の中を歩き回り、そして屠殺者に切り倒された。この大殺戮を生き延びた動物は、皆無であった。」(k)

「動物は、あらかじめ失神させることなく、極度の恐怖と苦痛を与えつつ残虐に屠殺された。」(k)

「この最悪の大虐殺により付近一帯は血の泥濘となり、動物の頭がいたるところに散乱し、動物たちの苦しみのほどを思い知らせる。これで女神が願いを叶えてくれるというのだ。」(i)

「血に飢えたガディマイ女神……。この動物屠殺は動物の基本的福祉に反する。」(d)

「血と悲鳴と無情の狂乱」(b)

「動物の基本的福祉が損なわれている。」(c)

「これまでは僧と商売人が、もっと動物を連れてきて、もっと殺せ、と言っていた。いまこそ関心をもつすべての市民が声をあげ、宗教の名による非人道的な殺戮をやめさせるべきだ。」

(h)

「動物権利擁護運動は道徳十字軍にしてかつ社会運動でなければならない。」(d)

[3]原始的な迷信

「本質的に迷信であり、時代遅れの考え方」(q)

「この原始的な伝統を全廃せよ。」(d)

「[動物供犠により] 力(शक्ति) が得られるという伝統的な考え方」(p)

以上のような動物愛護の観点からのガディマイ祭非難は、動物愛護どころか、実際にはむしろ、生命の尊厳を無視して際限もなく動物を利用し尽くす傲慢な人間中心主義を助長することになりかねないであろう。

[参照資料]

[b]Shristi Srestha, "Buddha and Bloodbath." http://www.myrepublica.com/portal/index.php?action=news_details&news_id=83135

[c]Chahana Sigdel, "Gadimai slaughter: Bihar, UP asked to check animal flow into Bara," Ekantipur, Oct.13, 2014

[d]Rukmini Sekhar, "Gadhimai Festival: Harvest of Blood," 05 October 2014. <http://www.dailypioneer.com/sunday-edition/agenda/for-a-cause/gadhimai-festival-harvest-of-blood.html>

[h]"Gadhimai Festival(Animal Sacrifice) In Nepal." <http://omoewi.blogspot.jp/2013/02/gadhimai-festival-animal-sacrifice-in.html>

[k]"Mass animal sacrifice at Nepal's Gadhimai FestivalTue," Sep 23, 2014. <http://asiaforanimals.com/coalition-voice/latest-news/item/100-mass-animal-sacrifice-at-nepal-s-gadhimai-festival>

[p]"Rivers of blood," <http://www.ekantipur.com/the-kathmandu-post/2014/10/15/oped/rivers-of-blood/268565.html>

[q]"Gadhimai (The Temple of Sacrifice)," Sep.18, 2009, <http://xplornepal.blogspot.jp/2009/09/gadhimai-temple-of-sacrifice.html>

谷川昌幸(C)

2014/11/22 at 12:04 カテゴリー: [宗教](#), [文化](#)

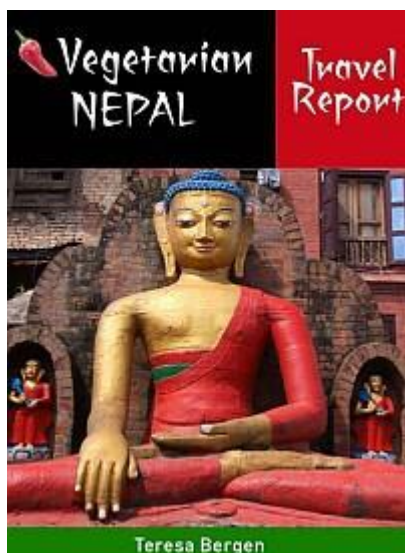
Tagged with [animal right](#), [animal welfare](#), [ガディマイ](#), [Brigitte Bardot](#), [Joanna Lumley](#), [動物愛護](#), [動物供犠](#)

ガディマイ祭：動物供犠と人間の業(6)

(2)ヒンドゥー教の不殺生の教えに反する

ヒンドゥー教の中からは、ガディマイ祭はヒンドゥー教の不殺生（अहिंसा）の教えに反するという批判がなされている。たとえば、「ネパール・ヒンドゥーフォーラム UK」のスルヤ・ウパダヤ議長は、「無辜の動物たちを宗教の名をもって非人道的で野蛮な生贄にすることは、断じて許されない」と厳しく非難している（1）

たしかに、ヒンドゥー教（「マヌ法典」など）には不殺生の教えがあり、一般に肉食は嫌われ、なかには一切の殺生を忌避する原理主義的ベジタリアンもいる。ヒンドゥー教徒が多数のインドでは、国民の約6割が多かれ少なかれベジタリアンであり、食事も非ベジタリアン用とは区別されている。食品には、一目で分かるように法令で下注のようなベジタリアン印（●）、非ベジタリアン印（○）の表示が義務づけられている。インドは殺生が最も忌み嫌われている国の一つといってよいであろう。



■ ベジタリアンガイド / 印マックの菜食・非菜食峻別 (<http://vivekvaidya.com/>)

しかし、その一方、ヒンドゥー教の教えの中には、神々への動物供犠や供犠後動物を食べることを積極的に勧めているところもある。ダサイン祭や、[ダクシンカーリー](#)など各地のヒンドゥー寺院で、動物供犠がさかに行われてきたのは、それゆえである。むしろ、ヒンドゥー教の神々ほど血なまぐさい神々は珍しいとさえ言ってもよいであろう。（参照：[血みどろのゴルカ王宮](#)）

したがって、ヒンドゥー教徒の中の不殺生を信条とする人々が、自らの信条に従って動物供犠をしないこと、あるいはまた動物供犠に反対することは自由だが、その信条をそうした信条をもたない人々にまで政治的に力をもって強制することは許されない。神々の争いは、神々の世界にとどめるべきである。

なお、蛇足ではあるが、不殺生をいうなら、動物だけではなく、生命をもつ他の「生物」をも殺して食べられないことになる。麦、米、野菜などの植物も動物と同様、生命をもつ。まして

や発酵食品ともなると、生きて働く無数の微生物を殺して食べることになる。モーツァルトを聴かせると熟成し美味しくなるという説もあるくらいだから、微生物にも「感覚」や「感情」があり、殺されると「苦しむ」はずだ。

人間は、他の生命を犠牲にせずして生きることは出来ない。それが人間の業である。

(注)インドの食品包装表示法

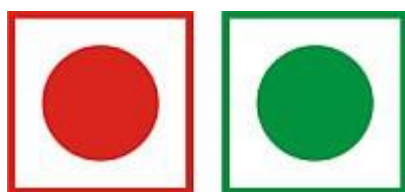
FOOD SAFETY AND STANDARDS (PACKAGING AND LABELLING) REGULATIONS, 2011

4. Declaration regarding Veg or Non veg

(i) Every package of “Non Vegetarian” food shall bear a declaration to this effect made by a symbol and colour code as stipulated below to indicate that the product is Non-Vegetarian Food. The symbol shall consist of a brown colour filled circle having a diameter not less than the minimum size specified in the Table mentioned in the regulation 2.2.2 (4) (iv), inside a square with brown outline having sides double the diameter of the circle as indicated below : Brown colour

(ii) Where any article of food contains egg only as Non-Vegetarian ingredient, the manufacturer, or packer or seller may give declaration to this effect in addition to the said symbol.

(iii) Every package of Vegetarian Food shall bear a declaration to this effect by a symbol and colour code as stipulated below for this purpose to indicate that the product is Vegetarian Food. The symbol shall consist of a green colour filled circle, having a diameter not less than the minimum size specified in the Table below, inside the square with green outline having size double the diameter of the circle, as indicated below : Green colour



■非ベジ・ベジ識別マーク

谷川昌幸(C)

2014/11/19 at 15:44 カテゴリー: [宗教](#)

Tagged with [ガディマイ](#), [Gadhimai](#), [vegetarian](#), [動物の権利](#), [動物福祉](#), [動物愛護](#), [動物供犠](#), [屠殺](#)

ガディマイ祭：動物供犠と人間の業(5)

4. ガディマイ祭反対運動

世界最大の動物供犠，ガディマイ祭に対しては，前回 2009 年頃から，ネパール内外で激しい反対運動が繰り広げられるようになった。

反対の論拠は，大別すると三つ。第一の論拠は，この祭がダリット差別を助長してきたというもの。第二の論拠は，動物を殺すことは，ヒンドゥー教の教えに反するというもの。そして第三の論拠は，供犠名目の動物殺戮は非人道的というもの。第二と第三の反対論には重複する部分が多いが，ここでは一応区別して議論することにする。



■ ガディマイ祭反対 FB

(1)ダリット差別の助長

最下層の被差別民であったダリットは，ガディマイ祭がダリット差別を助長してきたとして，この祭に反対している。

Ekantipur 記事（2014-10-28）によれば，かつて供犠後の水牛は放置され，これをダリットは持ち帰ってもよいことになっていた。地域のダリット指導者マハント・ラムはこう語っている。「一般にチャマル [下注参照] は 5 年に一度だけ水牛の肉を食べてよいと考えられており，これが差別を助長してきた。」

このことは，前述のように，前々回(2004 年度)までは，供犠後の動物は，連れてきた参拝者だけでなく他の誰でも自由に持ち帰ることができたという証言(f)もあるから，地域の長年の慣行であったと見てよいであろう。供犠動物は女神へのお供えであり，また供犠・分配後の残り物は不可触民として差別されてきた最下層ダリットへの 5 年に一度の施しでもあったのだ。

これに対し，供犠後の不衛生な残り物を施されるのは「差別」だと憤り，バラ郡やパルサ郡のダリット共同体は，供犠後動物拒否運動を始めた。「チャマルも社会の変化に気づき始めた」とマハント・ラムは述べている(o)。

ガディマイ祭反対運動として最も説得力があるのは，このダリット共同体の反対運動である。供犠・分配後の残り物を施すなどといった，文字通り「非人間的」で「反人権的」な差別的慣習の温存は許されるはずがない。

しかし，その一方，こうしたダリット共同体の供犠後動物拒否運動が，ガディマイ祭商業化の要因の一つともなっているのではないかと，とも思われる。ダリットにタダで恵むよりも売却した方が得ということ。

もしそうであるなら、皮肉なことに、ダリットのガディマイ祭反対運動が成功すればするほど、それだけ祭が商業化・資本主義化し盛大となるのを助長する結果になってしまう。

そして、商業化すれば、今度は、巧みな宣伝に煽られ、数ヶ月分もの収入を購入費に充てるなど、無理してヤギや水牛を買い、供犠のために連れてくる多くの信心深い人々が、祭を牛耳る有力者らの食べ物にされてしまうことになる(h)。たとえば、こんな話もある。

「ネパール政府はガディマイ祭に 450 万ルピーを援助しているが、その援助に見合うだけの効果はあるのか？ 私を見る限り、利益を得ているのは、祭実行委員会と商売人だけだ。われわれの調査中、ある人がうっかり口を滑らせ、自分は祭司家族とコネがあるので駐車場入札でうまくいった、ともらした」(f)。

このように、商業化すればするほど、宗教を利用した民衆搾取は大規模となる。しかし、これは伝統的なカースト差別ではないから許される、ということにはなるまい。これは新しい形の半資本主義的な不正・腐敗であり、この観点からの批判も、ダリット差別の観点からの批判と同様、十分な根拠があり正当であるといつてよいであろう。

(注)

▼チャマール Chamar, widespread caste in northern India whose hereditary occupation is tanning leather; the name is derived from the Sanskrit word charmakara (“skin worker”).[...] Members of the caste are included in the officially designated Scheduled Castes (also called Dalits); because their hereditary work obliged them to handle dead animals, the Chamars were among those formerly called “untouchables.” (Encyclopaedia Britannica)

Major Population of Chamars

| S.N. | Districts | Male | Female | Total | % |
|--------------|------------------|-------|--------|---------------|------|
| 1 | Rupandehi | 14425 | 13272 | 27697 | 3.9 |
| 2 | Siraha | 13507 | 13163 | 26670 | 4.7 |
| 3 | Kapilbastu | 13489 | 12404 | 25893 | 5.4 |
| 4 | Bara | 11740 | 11220 | 22960 | 4.1 |
| 5 | Dhanusha | 11624 | 11054 | 22678 | 3.4 |
| 6 | Saptari | 10957 | 10827 | 21784 | 3.8 |
| 7 | Parsa | 10935 | 10117 | 21052 | 4.2 |
| 8 | Nacbal parasi | 10815 | 10065 | 20880 | 3.7 |
| 9 | Sarlahi | 10533 | 9892 | 20425 | 3.2 |
| 10 | Rautahat | 10083 | 9630 | 19713 | 3.6 |
| 11 | Mahottari | 8262 | 7944 | 16206 | 2.9 |
| 12 | Banke | 6042 | 5307 | 11349 | 45.8 |
| Total | | | | 257307 | |

Sources: 2001 Census, Central Bureau of Statistics

▼ネパールのチャマール人口

(Shyam Sundar Sah, AN ETHNOGRAPHY STUDY OF CHAMAR COMMUNITY: A CASE STUDY OF SIRAHA DISTRICT, March, 2008)

[参照資料]

[f]Dilip D Souza, "The Goddess Beckons," December 2009, Himal

[h]"Gadhimai Festival(Animal Sacrifice) In Nepal."

<http://omoewi.blogspot.jp/2013/02/gadhimai-festival-animal-sacrifice-in.html>

[o]"Dalits to boycott animal carcass," ekantipur,2014-10-28

谷川昌幸(C)

2014/11/18 at 13:25 カテゴリー: [宗教](#)

Tagged with [カースト](#), [ダリット](#), [ヒンドゥー教](#), [Chamar](#), [Gadhimai](#), [動物供犠](#), [屠畜](#), [屠殺](#)

ガディマイ祭：動物供犠と人間の業(4)

3. ガディマイ祭の催行

ガディマイ祭は、実際には見ていないので、以下はネット記事などのとりまとめにすぎない。また、祭礼催行方法は、1990年民主化以降、とくに前々回1999年頃から大きく変化し始めたようなので、関連記事にも混乱が少なくない。いずれが事実かにわかには判別しがたいので、様々な情報をできるだけ整理して紹介するにとどめたい。矛盾や繰り返しもあるが、ご容赦願いたい。

(1)ガディマイ寺院

現在のガディマイ寺院は、1993年(2050年)、ケドゥ・チョーダリ・タルーが、バグワン・チョーダリを記念して建立したものの。

それ以前にこの場所に何らかの建造物があったかどうかは不明だが、寺院の側にはココナツを割るための大きな石がある。ココナツは、ダクシンカーリーなど他の寺院でもよく見られる供物であり、バリヤルプルでも、古くは、地元の人々がこの石の上で割ったココナツと幾ばくかの生贄を捧げ、ガディマイ女神の加護を祈っていたのであろう[a]。

そうした古来の素朴な宗教儀式が、1990年の民主化や1993年の寺院建立を転機に大きく変化した、現在のような「世界最大の動物供犠祭」になったのではないかと思われる[b]。



The temple established in 2050 in the memory of Bhagwan Chaudhari, the man behind the popularity of Gadimai goddess. The temple was built by priest Khedu Chaudhari Tharu, a resident of Bariyarpur, Bara. Photo by Sahishnu Poudyal.



■2050年建立のガディマイ寺院 (Himalayan 2009-11-22) / 女神とココナツ
(gadhimai.info)

(2)ガディマイ祭実行委員会

ガディマイ祭も、他の祭と同様、近代化以前は、おそらく地域の村共同体が村の行事として執り行っていたのだろうが、現在は、「ガディマイ祭実行委員会」が組織され、祭の運営に当たっている。

2009年度のガディマイ祭実行委員会は、委員総数1000、小委員会15。2014年度の体制はよく分からないが、実行委員長はラム・チャンドラ・シャハで、近くの村々に村実行委員会が組織されているという[c,d,e]。

実行委員会は、本部がそれぞれの村の実行委員会に協力を要請する。2009年の場合、1村(VDC)当たり動物1000頭(内訳不明)の奉納が求められ、その見返りとして各村には祭の収入から分配金が支払われた。2014年度は、奉納動物をさらに増やし、祭を盛り上げ、収入増を図りたいという[f]。

(3)ネパール政府

ネパール政府は、ヒンドゥー教国家であった頃は、他の祭と同様、ガディマイ祭に関与することにも何ら問題はなかったはずだが、民主化以後、特に2007年の世俗化以後は、この祭を宗教儀式ではなく地域の「文化行事」と見なすことにより、政府として様々な援助を行ってきた。たとえば祭への政府助成金は、2009年度450万ルピー。他に、寺院周辺(3~6km)の家畜への疫病予防接種、供犠後動物の処理施設の改善など。また2014年度には、動物検疫所も何カ所か設置する予定だという[f,g]。

しかし、このようにして政府が関与すると、ガディマイ祭反対派からの非難攻撃をもろに受け、ガディマイ祭が政治問題化することは避けられない。ガディマイ祭は、今年の参拝者が500万人とも1千万人ともいわれる大行事であり、祭が実施される以上、治安や衛生の面からも、実際上、政府は関与せざるをえない。が、関与すれば政府は非難される。政府にとって頭の痛い難問である。

(4)商業化

ガディマイ祭も、他の動物供犠と同様、つい最近までは宗教儀式として執り行われていたにちがいない。供犠後の水牛の肉も、2009年度ガディマイ祭実行委員会事務局のモティ・ラル・クスマによれば、以前は希望者に無料で配布されていたという(2004年であれば4千頭)。ところが、2009年度について、彼は「肉と皮を競売し、2千万ルピーの収入を得たい」と言っている。実際にどの程度の収入だったのか分からないが、相当の儲けが出たことは確かなようだ。祭には、他にも見物料や出店料あるいは参拝者からの寄進など様々な収入もあり、これらはバラ郡の開発に当てられるという(f)。

これは、明らかにガディマイ祭の変質。祭の「見世物(ショー)化」「商業化」である。

(5)祭礼の開始

ガディマイ祭は、次のようにして開始される(一部既述)。

マンシール月第2サブタミの日(今年は11月28-29日)の未明、ブラフマ・ババ寺院の大きな菩提樹の下に運び出されたガディマイ女神像の前で、村の祈禱師(ドウガ・カチャディヤの子孫)が、バグワン・チョーダリの子孫とともに、お祈りを始める。

しばらくすると、ガディマイ女神が目覚め、大きな壺のギー灯明に自ずと灯がともる。そして、この目覚めた女神に、人間の身体の5カ所(胸、舌、目の下、あご、腕)の血と、5種類の動物(ネズミ2、ハト2、ブタ1、ニワトリ1、子羊1ないし水牛1)の生鬘を捧げ、また供犠で使用されるククリ刀にもお祓いをする。

これが済むと、寺院近くの広場で動物供犠が開始される(a,h,i,j)。

(6)動物供犠の実行

ガディマイ寺院近くの供犠場広場に連れてこられる動物は、総数20~50万。

水牛=1万4千(2004年)、2万(2009年)

ヒツジ=5~30万(2009年)

ククリ刀などで動物供犠を実行する係は、200~400人。また、25ルピーを払い入場すれば、誰でも自分の手で供犠を実行できるという。参拝者総数は、100~500万人(2009年)。

以上が事実だとすると、たしかに「世界最大の動物供犠」。寺院周辺が血みどろの修羅場と化すのは当然といえよう(d,h,i,k,l,m,n)。



■動物供犠の見物 (neostuff.com/2014/10/12)

(7)動物供犠の終了

やがて(2日後?), 大きな壺の中のギー灯明が自ずと消え、ガディマイ女神は退去、祭の終了が告げられる。ここで動物供犠は停止され、生き残った水牛には耳に印をつけ、次の祭まで飼育される(j)。

供犠後の動物の肉や皮や骨の利用については、前述のように2009年の前回から商業化が進み、カトマンズの商人らに売却し、利益は寺院維持や地域開発に回される。

[参照資料]

[a] Merritt Clifton, "The Origin of the Gadhi Mai Sacrifice." <http://www.animals24-7.org/2014/03/12/427/>

[b] Shristi Srestha, "Buddha and Bloodbath." http://www.myrepublica.com/portal/index.php?action=news_details&news_id=83135

[c] Chahana Sigdel, "Gadimai slaughter: Bihar, UP asked to check animal flow into Bara," Ekantipur, Oct. 13, 2014

[d] Rukmini Sekhar, "Gadhimai Festival: Harvest of Blood," 05 October 2014. <http://www.dailypioneer.com/sunday-edition/agenda/for-a-cause/gadhimai-festival-harvest-of-blood.html>

[e] "Gadhimai-fair celebration committee formed," 03 November 2014, Nepalnews.com

[f] Dilip D Souza, "The Goddess Beckons," December 2009, Himal

[g] "Action plan readied to manage animal sacrifice: Gadhimai festival," Ekantipur, 2014-10-22

[h] "Gadhimai Festival (Animal Sacrifice) In Nepal." <http://omoewi.blogspot.jp/2013/02/gadhimai-festival-animal-sacrifice-in.html>

[i] "Nepal's Gadhimai festival draws animal blood and millions of visitors." <http://www.thealternative.in/society/nepals-gadhimai-festival-draws-animal-blood-and-millions-of-visitors/>

[j] Ravi M. Singh, "The Five-Year Animal Sacrifice," Sep. 25, 2013. <http://ecs.com.np/features/the-five-year-animal-sacrifice>

[k] "Mass animal sacrifice at Nepal's Gadhimai Festival Tue," Sep 23, 2014. <http://asiaforanimals.com/coalition-voice/latest-news/item/100-mass-animal-sacrifice-at-nepal-s-gadhimai-festival>

[l] "Nepal Must Stop Inhumane Sacrificial Slaughter." http://action.ciwf.org.uk/ea-action/action?ea.client.id=119&ea.campaign.id=29144&ea.tracking.id=7774353c&utm_campaign=slaughter&utm_source=actionemail&utm_medium=email&forwarded=true

[m] D.M. Murdock, "'Tis the season for slaughter," November 27, 2009. <http://www.examiner.com/article/tis-the-season-for-slaughter>

[n] "Hindu sacrifice of 250,000 animals begins." <http://www.theguardian.com/world/2009/nov/24/hindu-sacrifice-gadhimai-festival-nepal>

2014/11/17 at 12:08 カテゴリー: [宗教](#)

Tagged with [animal right](#), [ガディマイ](#), [ヒンドゥー教](#), [Gadhimai](#), [動物の権利](#), [動物福祉](#), [動物愛護](#), [供犠](#)

ガディマイ祭：動物供犠と人間の業(3)

(2)260 年前始原説

最も流布しているのが、この 260 年前始原説。たかだか 260 年の歴史しかないとした方が批判しやすいせいか、ガディマイ祭反対派が、英仏独西日など様々な言語で、この説を世界中にばらまいている。流通しているという意味では、通説。900 年前起源説の簡略版といってよいが、一部異なるところもある。

この説によれば、260 年前、バリヤルプルの封建地主バグワン・チョーダリが、**マクワンプル要塞に投獄**されていたとき、夢の中で、ガディマイに人間と動物の血の犠牲を捧げるなら、問題はすべて解消されるというお告げを受けた。

出獄したバグワンが村の呪術師にお伺いを立てると、呪術師は自分の身体の 5 カ所から血を採り女神に捧げた。すると、壺から光が立ち現れ、これを合図に動物供犠が始められた。以後、5 年に一度、このガディマイ祭が行われてきた。

[参照] Merritt Clifton, "Origin of the Gadhi Mai Sacrifice," (<http://animals24-7.org/2014/03/12/427/>); Rukmini Sekhar, "Gadhimai Festival: Harvest of Glood," Daily Pioneer, Oct. 5, 2014; The Alternative-India, "Nepal's Gadhimai Festival Draws Animal Blood and Millions Visitours," (<http://thealternative.in/>); "Gadhimai-The Temple of Sacrifice"(Nepal Tourism Board:Explore Nepal)ほか多数。



■マクワンプル要塞[Gadhi, Fort](Wiki) / ガディマイ寺院(Nepal Tourism Board)

Supreme Court of India ruling covers tracks on Gadhi Mai sacrifice

OCTOBER 24, 2014 BY MERRITT CLIFTON — 5 COMMENTS

DELHI—Did a two-justice bench from the Supreme Court of India on October 17, 2014 strike a mighty blow against animal sacrifices at the Gadhi Mai festival, to be held in the village of Bariyarpur, Nepal, on November 28-29, 2014?

Or did the Supreme Court justices just hand the government of India and a coalition of



Buffalo calf. (Eileen Weintraub photo)



Nepal's Gadhimai festival draws animal blood and millions of visitors

■Animals 24-7 / The Alternative.in

谷川昌幸(C)

2014/11/06 at 19:18 カテゴリー: [インド](#), [宗教](#)

Tagged with [ガディマイ](#), [Bariyarpur](#), [Gadhimai](#), [Makwanpur](#), [動物の権利](#), [動物供犠](#)

ガディマイ祭：動物供犠と人間の業(2)

3. ガディマイ祭縁起

ガディマイ祭の由来については、いくつか説があるが、よく知られているのは、900年前始原説と260年前始原説。



■ガディマイ寺院：グーグル地図（○＝寺院）／グーグルアース

(1)900年前始原説

ラヴィ・M・シンは、シヴァ・チョーダリ・タルーから聞き取りしたとして、900年前起源説を次のように説明している。Ravi M Singh, "The Five-Year Animal Sacrifice," ECS Nepal, Sep. 25, 2013 (<http://ecs.com.np/features/the-five-year-animal-sacrifice>)

シヴァ・チョーダリ・タルーは、バグワン・チョーダリの直系子孫で、ガディマイ寺院の祭司長。そのチョーダリによれば、ガディマイ祭は約900年前に始まった。

900年ほど前のある日、バリヤルプルのバグワン・チョーダリの家に泥棒一味が侵入したが、すぐ捕まり、怒った村人たちにより皆殺しにされた。バグワンは、村人たちが罪に問われるのを恐れ、すべての罪を自ら引き受け、カトマンズのナクー監獄に投獄された。

ある夜、マクワンプル要塞（गढ़ी, Gadhi）の女神が夢に現れ、以来、毎夜夢に現れるので、バグワンは、自分を殺害事件のあったバリヤルプルに連れ戻してほしい、と頼んだ。（最後の部分、文意不明瞭。「女神は、殺害事件のあったバリヤルプルに連れて行ってほしい、とバグワンに頼んだ」とも読めるが、これはやや不自然。）



■現在のナクー刑務所（Nakku Jail, Khabartime.com）

女神はバグワンの願いを聞き入れ、その偉大な呪力によりバグワンをナクー監獄から解放した。女神の足下から土が流れ出しバグワンのターバンにまで届き、そこから道ができ、バグワンは村に戻ることが出来たのである。（ちなみに、ガディマイ寺院の土は神聖で、持ち帰り田畑に撒くと、土地が肥え作物がよく育つとされている。）

バグワン解放の見返りとして、ガディマイは、毎年、人間5人を生贄として捧げよと求めた。バグワンは、自分の生命は喜んで差し出すが、人間5人の生贄は捧げられないと応えた。そして、その代わりに、5年ごとに、動物パンチャバリ（पञ्चबाली, 5種動物供犠）を行うと誓った。ネズミ、ブタ、ニワトリ、ヤギ、水牛の5動物の生贄である。

こうして、力と繁栄と土地守護の女神ガディマイのためのパンチャバリが始まったが、バリヤルプルの人々の願いは聞き届けられず、子供や若者が病気になり死に始めた。仕方なく、バグワンが再びガディマイにお伺いを立てると、女神は動物パンチャバリだけでなく人間の生贄も捧げよと求めた。そこで、やむなく人間の生贄探しを始めたが、これはうまくいかなかった。

そこに幸いにも、ラウタハトのシムリから一人の村人が助けにやってきて、自分の身体の5カ所——胸、舌、目の下、あご、腕——からそれぞれ血を採り、その血を女神に捧げた。いわゆるナラバリ（नरबलि, 人間供犠）の一種である。女神はこれを喜び、村は破滅から救われた。こうして、バリヤルプルでは、以後、動物パンチャバリと人間ナラバリが行われるようになり、今日に至っている。



宛先: SUPREME COURT OF NEPAL

Stop all animal sacrifices
Gadhimai Temple (Mandir),
Bariyarpur, Bara District in the
Narayani Zone of south-eastern
Nepal.

■最高裁へのガディマイ祭反対請願 (Sante Secchi
イタリア, Change.org)

谷川昌幸(C)

2014/11/03 at 11:40 カテゴリー: [宗教](#)

Tagged with [ガディマイ](#), [ヒンドゥー教](#), [生贄](#), [Gadhimai](#), [narabali](#), [narbali](#), [pancha bali](#), [動物供犠](#), [人間供犠](#)

ガディマイ祭：動物供犠と人間の業(1)

5年に1度のガディマイ祭（गढिमाई पर्व, गढिमाई मेला）が、11月下旬、バラ郡バリヤルプルで開催される。この祭は世界最大の動物供犠祭として知られており、今年も、動物の愛護や権利擁護を唱える世界中の人々から、「非人道的」などと激しい非難攻撃を浴びている。私の考えはすでに何回か表明したが、今年は前回（2009年）以上に議論が激昂しており、また新しい論点もいくつか明らかになってきたので、ここで改めて、ネット上の議論を参考にしつつ、考察してみることにする。

[参照] [動物の「人道的」供犠：動物愛護の偽善と倒錯](#)； [動物供犠祭への政治介入：動物権利擁護派の偽善性](#)； [血みどろのゴルカ王宮](#)； [インドラ祭と動物供犠と政教分離](#)； [ケネディ大使、ジュゴン保護を！](#)； [イルカ漁非難、その反キリスト教的含意と政治的戦略性](#)

Urge Nepal to End Gadhimai Animal Massacre

JOANNA LUMLEY: NEPAL SAY NO TO MASS ANIMAL SACRIFICE

■ガディマイ祭反対キャンペーン： People for the Ethical Treatment of Animal-US / Compassion in World Farming-UK)

1. ガディマイ祭の概要

(1)開催日：5年に1度、11月下旬2～4週間。動物供犠は満ちる月の第二 月。前回2009年11月24-25日、今回2014年11月28-29日。

(2)開催場所：バラ郡バリヤルプルのガディマイ寺院(現寺院1993年建立)とその周辺。バリヤルプルはタルー民族の村。住民7033人(1991)。

(3)祭事：ガディマイ(ガディ女神)への動物供犠。供犠動物総数25～50万。

(4)供犠動物：水牛、ヤギ、ヒツジ、ブタ、ニワトリ、アヒル、ハト、ヘビ、ネズミなど。

(5)参拝者：約500万人、その60～70%はインドから(2009年)。

(6)ネパール政府拠出金：450万ルピー(2009年)



■ガディマイ寺院 (ECS Nepal) /バリヤルプル(UN-Nepal)

2. ガディマイ

ガディマイ(ガディ女神、ガदीマई、ガदी माई)はドゥルガー (दुर्गा) の娘で、カーリー ((काली) の姉妹。あるいは、カーリーと同様、ドゥルガー自身の別の姿 (別の相のドゥルガー) ともいわれている。

ドゥルガーは、戦いと勝利の女神で、恐ろしい水牛の姿をした大魔神と血みどろの戦いを戦い、これを殺し、世界を救った。ガディマイはその娘ないし別の相であり、「力の女神」。このガディマイに生贄 (特に水牛) を捧げると、その恐るべき力(シャクティ)による加護が得られると信じられてきた。



■ドゥルガー，下方は退治した水牛魔神の生首（Education Blog）



■カーリー(WIKI)／ガディマイ（FB,Gadhimai5）

谷川昌幸(C)